

## - 2. 食のリスクコミュニケーションにおけるマスメディアの役割

### Risk communication on food and the role of mass media

<b>キーワード</b>	食品安全、リスクコミュニケーション、マスメディア
<b>Key Words</b>	food safety, risk communication, mass media

#### 1. 調査の目的

近年、BSE、鳥インフルエンザ、食品添加物など、食の安全が大きく揺らいでいる。そのような中で、食品安全に関するリスクコミュニケーションの重要性が指摘されている。これは専門家から一般国民や消費者への一方的な情報伝達のみならず、生産者、流通業者、専門家コミュニティ、市民・NPO さらにはマスメディアといった様々の関係者(ステークホルダー)が関係してくる。

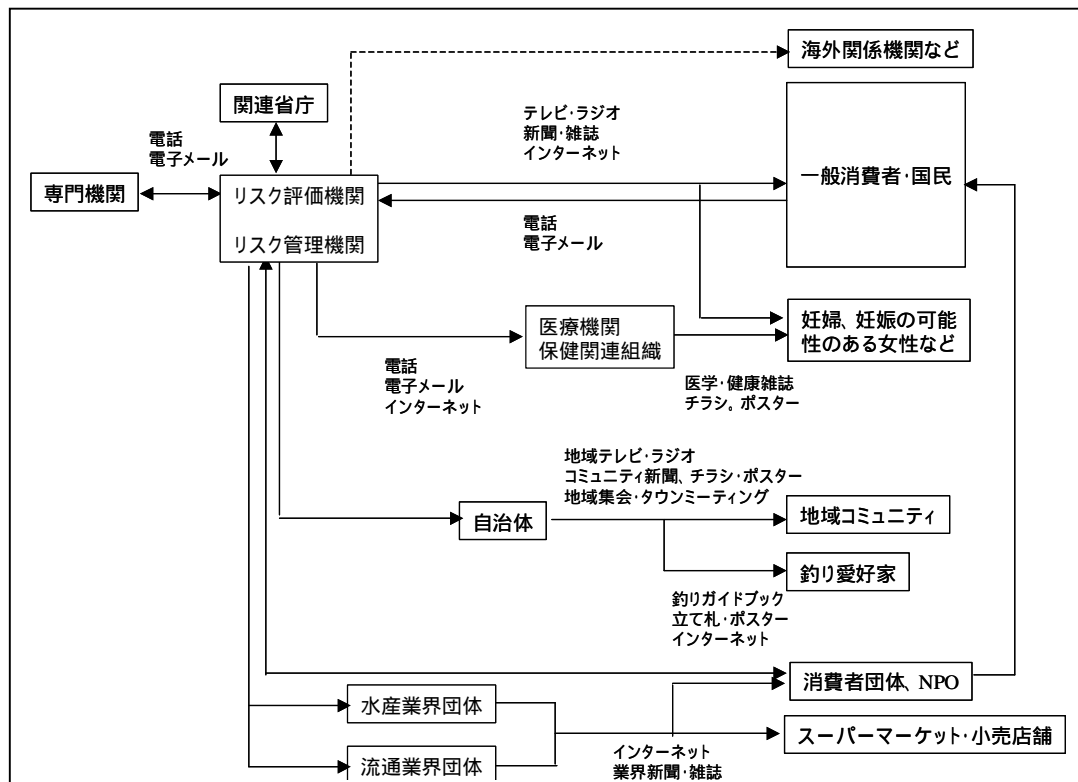
とりわけ、新聞、テレビといったマスメディアが、人々の認識や行動に大きな影響を与えることは、最近の事例・事件を見るまでもなくない。

本研究は、食のリスクコミュニケーションにおいてマスメディアが果たす役割を、いくつかの事例調査、消費者の意識調査、さらには海外でのメディアの対応分析などを行うことにより、総合的に明らかにしようとするものである(平成16年度の放送文化基金からの助成研究)。

#### 2. 調査研究成果概要

##### (1) 関係者の構造

食のリスクコミュニケーションをめぐる関係者の構造について、魚介類の有機水銀含有を事例として、以下の図に示す。



< 魚介類の雪水銀含有に関わる関係者と情報の流れ >

## (2) 関係者の構造

マスメディアによる特定層への情報伝達は、報道の仕方によっては、情報を受ける人々が、特定層向けではなく一般国民向けの情報と受け取られる可能性がある。

例えば、2004年3月19日のアメリカFDA/EPAのツナ缶摂食についての「水銀含有魚介類の注意事項」に関するテレビや新聞といったマスメディア報道において、妊婦などの限定表記が後退し、国民一般を対象にしたかのようなニュース番組が報道された。

このようなマスメディア報道は無用な社会的混乱を招く恐れがあるため、マスメディアは、リスク問題の十分な理解と、一般の人々への客観的かつ正確な情報提供が求められる。



(2004年3月20日付、ワシントンポスト紙1面より)

FDA/EPAによる新たなツナ缶規制を報じる新聞紙面<sup>1</sup>

## (3) 今後の展開

来年度は、これまでの研究成果をベースにして、食のリスクコミュニケーションにおいてマスメディアが果たす役割(信頼性、行動影響力など)についての消費者意識調査を実施する予定である。